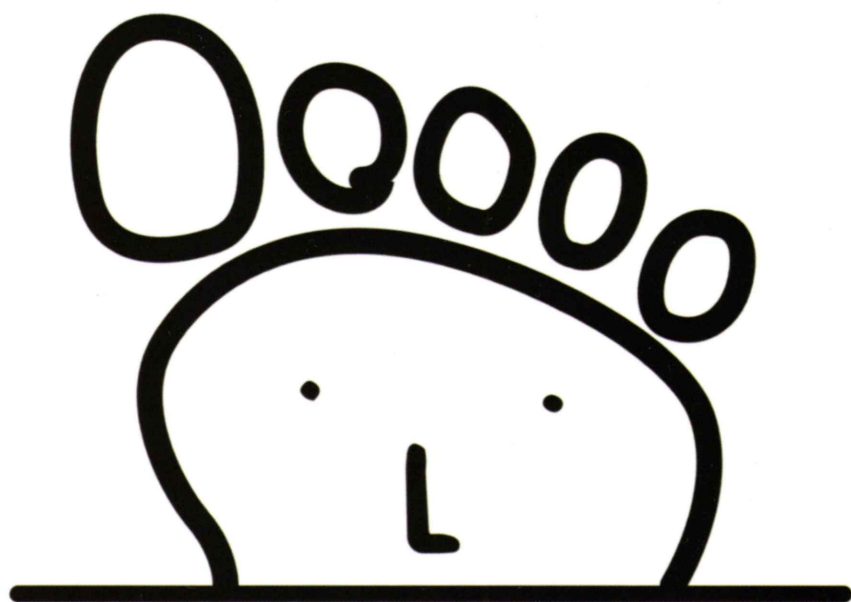


長野で暮すマイノリティを生きる僕らのために、
僕らが作るフリーペーパー

hanpo vol. 01

TAKE
FREE

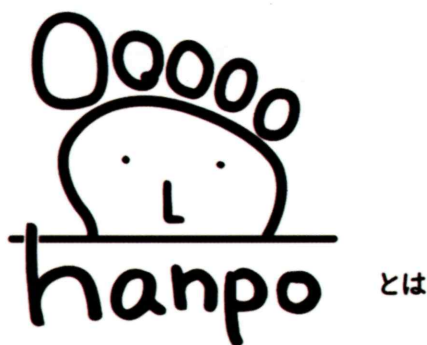


はんぽだけ進んでみたんだ

topic

- 半歩だけ進んでみたよ
- 大人を信じられない君へ
- ほんだなのおきぐすり
- ざっきーことばさがしー
- ぼくらのいきばしょーおどりばー

hanpoは、さまざまないきづらさを経験してナガノで暮らして
複雑な思いをしているあなたに、ナガノに住む半歩先にいる人たちの
声を伝える手紙です。



いま、様々なマイノリティのもとに孤独を感じていたり
さみしい思いをしている10代から20代くらいのあなたへ

ナガノで様々な生き方をして暮らすマイノリティ※の経験者たちが
自分たちの経験を伝えるフリーペーパー&SNSです。

半歩だけ進んでみたよ。

しおあじ

こんにちは、こんばんわ、かもしれないし、おはようかもしれないけれど、
今きみが手に取ってくれている、小さな本、「hanpo」を作った人の一人で
長野市に住んでいる「しおあじ」です。はじめまして。少しの間よろしく。

これを読んでいるきみは「大人」についてどう思っているだろう。

僕が小学生の頃の大人のイメージはしっかりしていて、かっこよくて、正しい。

そんなイメージだった。

もちろん、そういう大人もいるけど、みんながみんなそういう大人ばかりじゃ
ない。きみのそばにいる大人たちだって、ほんの少し前まで、きみと同じ年
の頃があつて頭を抱えてうーうーと呻っていた時期だつてあつたと思うんだ。
僕だって、きみから見たらもう大人だと思うけど。僕もその一人だった。

この本はそうした、十代くらいのきみが、もし何かに悩んでいて人に話せ
ないことがあつたときに、もしかしたら、同じように悩みをもった少し先にい
る人の言葉を届けられたら、きみのその悩み少し軽くなったりするんじゃない
かな?と思って作ってみた。

じゃあ、僕の話を少しだけするね

(詳しくはnoteにこれから書いていこうと思う)

僕は小中学校の頃いわゆる「不登校」だった。

(僕はこの言葉がいまだに好きになれないけど、この言葉を使うね。)

不登校になったきっかけを僕は長い間忘れていた、ほら、誰だって嫌なことは忘れたいもんだろ?でも冗談じやなくて忘れていたんだ、すっぱりと、そのあと向き合うことになるまではね。きっかけは「いじめ」だった、小学校の頃の僕は体も小さくて、あまり体を動かすのが得意ではなかった僕はクラスの男の子たちには遊びには誘ってもらえなかった、よくからかわれたし、仲間はずれにもされていた。その頃からだんだんと学校が楽しい居場所ではなくなっていた。学校に入る前、「学校に行ったら楽しいよ」「小学校ではたくさん遊べるよ」「お友達もたくさんできるよ」なんて言われて、みんなの共通認識になっていた。なのに、それを楽しめないのは、僕がおかしいんじゃないか?。

僕は僕を信じられなかった。たぶん、僕がおかしいんだ。そう思っていた。そう思って学校(社会)への不信は持ちたくなかった。だってこわいじゃん。

4年生になって担任の先生が変わって、クラスの中にあつた仲間外れや、いじめがひどくなった、それから、かなりショックな事件が起きて僕は学校に行けなくなった。それから2、3年の時間が過ぎる。

(その間も結構しんどいことは多かった。けど省略)

家に引きこもってから僕は時間をかけていくつかの居場所に出会った。

一つ目は不登校の子どもたちをもつ親の会。そこはずいぶんと楽だった、自分のように学校に行かなくなった子のことを程度理解してくれる大人の集まりで、家族には気を使って話せないことも逆に話せたりした。

2つ目は、当時長野にあったフリースクール。同じように学校から離れてきた仲間や変わった大人たちに出会ったりして、僕は徐々に自分の行ける居場所を増やすことができた。

それぞれの場所で、それはそれでいろいろあつたのだけど、まだ居場所が学校しかないと思っていた頃、学校は子どもながらに社会の縮図だと思っていたから、行かないといけない場所だと思っていた、あの時は自分がとてもダメな子だと思っていた。

正直、今でもそのことを負い目に見ているところがないといえど嘘になる。でも、あの時学校にいられないと思つたから、僕は外に出た。外に出て自分で自分行ける場所を選ぶことができたから僕はずいぶんと救われたと思つている。僕らが居場所にできる場所は学校だけじゃない。

本棚の置きぐすり

五月病のススメ

新年度…だるいんじやが…もはや、めんどくさいんじやが…

そんな時に手にしたいモノ/作品たちをご紹介。

家から、出たくなかつたってよくない?

ちなみに、五月病には、早期性五月病(4月から)と、旧暦の五月病(6月まで)がある。

編集部の大半は慢性の5月病である。

さて、僕が今何をやっているかという点、僕と同じように学校に居場所を見つけれなかった同志たちの居場所「フリースペース」で働いている。

学校に行けなかったあの頃、同じように悩んでいた仲間たちと、自分たちのように、学校以外の場所で仲間を作れるように、と思つて。そういう意味では僕は夢をかなえているのかもしれない。

僕はこれまで、自分と同じように不登校の子ども達にとつて、どうしたら居心地の良い居場所ができるのかと考えてきた。でも多くの子どもたちと接するうちに気づいたのは、不登校の子ども達だけが生きづらさを感じているわけじゃない、学校に行っている子ども達も学校に行かないという選択肢が無い子ども達はもちろん苦しい。でもそれだけじゃない、僕は自分の置かれている状況に「不登校」という

カテゴリーをされていた、でも、不登校が社会問題として認知されて表面化されたことで、ある種仲間と居場所を与えられたと言えなくもない。

では、それ以外の子どもはどうなんだろう？

自分が学校にいけない理由が自分自身でわからない子ども達、まだ社会問題として表層化していない、もっとマイノリティな事情を抱えた子ども達は、どうしたら居場所を持つことができるだろう、

どうしたら同じ思いを持った仲間を作ることができるのだろう。どうやったら、この気持ちを届けられるかな、と思つて、これを作つて届けることにしたんだ。自分たちの過ごしてきたこと伝えることで、誰かの助けになるならと。

でもそれだけじゃない、これを手に取つて、少しでも気持ちが悪くなった、と思つたら、それを僕らにも教えてほしい。それだけで、僕らは救われるんだ。きみも僕らを救うことができるんだ。

よかつたら、これからも、僕ら半歩先にいる仲間の声を読んでみてほしい。

間違いなく言えることは、ここに声を寄せている人たちは、様々な息苦しさを抱えていても、みんなナガノで暮しているということ。

hanpo という、

「マイノリティ」とは、

不登校や学校の問題、だけではなく、発達障碍、身体障碍、内部障碍、LGBT、ネグレクト、国籍、人種問題、震災疎開、その他 etc これらに当てはまらなくても活していて感じる、様々な人に伝えにくく理解されにくい生きづらさのことを指す。

本棚の置きざり /

映画

レンタネコ/ 邦画 萩上尚子 監督作品

「れんた〜ねこ ねこねこ」猫をリアカーに乗せて、悩みある人の前に現れて、猫を貸してくれる変なおねえさんと、猫たちの映画、ゆるゆるゆるゆる、真剣に観る映画じゃないけど、なんにもやる気の起きないときに、なんと〜眺めていた映画。やる気でなくなつていいじゃない、そんなところが、やる気の無い5月にぴったり、、、だと思ふ。猫たちは、やる気見せないように生きているけど、あの子たちは精一杯生きてるし、「ランクづけってなんか意味あるんですか？」核心を突くような言葉もあって、ハツとしたりもする。

※フリースクールやフリースペースについて。

学校以外の居場所として、日本各地に増えています、長野にも現在いくつか開設されています。が、義務教育期間である、小中学生の時期に学校ではない場所に行き、くこともよくないことのように思うかもしれないけど、実は2006年に文科省が「教育機会確保法」という法律を実施していて、それによると「だれにでも起こりうることで問題ではない」と明記されていて、学校以外の学びの場を認めるということ、わりと校長先生の裁量次第で出席扱いになるようになってきています。

第十三条では「個々の不登校児童生徒の休養の必要性を踏まえ、

当該不登校児童生徒の状況に応じた学習活動が行われること」とあるので、無理をしてまで学校に行く必要はない、という解釈ができる。

学校に行かないという期間を過ぎてきた僕らから見ると、学ぶ場所は学校だけではなく、学校に行くという選択、行かないという選択ができるようになってきた。のかなあ、と思っています。

じゃあ、義務教育期間を過ぎた高校生はというと、通信教育や定時制など、自分の生活にあった場所を選ぶこと、それと合わせて、

自分と同じような経験を持つ人が集まる場所や、自分のやりたいことを応援してくれる人がいる場所を見つけると、生きやすくなるのかな。。。

フリースクールやスペース、居場所に関しては長野にもいくつかあるけど、近くにどんな居場所があるかは、編集部にお問い合わせしてもらえると、紹介できます。

お気軽にお問い合わせくださいませ。

★ 大人の方へ

長野県の不登校の大きなつながりを持ったネットワークは、全県の「ながの県不登校を考える県民のつどい」や「発達障害あるあるラボ」など各地で活動する団体もありますので、つながりを持っていただけるといいかもしれません。

コミック

本棚の置きぐさり 2

メフィスト惨歌 / 藤子・F・不二雄 中公文庫コミック版 1994年初版

冴えない男、倉札は失業し、恋人にも友人にも捨てられ、不幸の真ただ中。そんななか突然悪魔が登場! 望みを叶える代わりに死んだ後の魂をよこせという契約を迫る。悪魔は、倉札がつけるいろいろな契約条件を苦渋の決断で飲みながら無事に契約を得るも、そこには倉札の巧妙な罠が…。

「ドラえもん」「パーマン」「キテレツ大百科」で全世界的に有名な、

藤子・F・不二雄。彼の真骨頂は、ブラックジョークにあり。メフィスト惨歌の他 9話を盛り込んだ短編集の漫画。藤子・F・不二雄のイメージがガラッと変わるかも。今までのイメージのままでもいいなら…見ない方がいいかもしれない(笑)

子供が自信をつけて長所を伸ばせるようにサポートする、できないことをできるように手助けするのが、先生の役目なんじゃないだろうか。意味がわからなすぎて、先生に対して恐怖しか感じなかった。

また別のとき。給食のミートソースが入った鍋を運んでいたから、盛大にこぼしてしまった。これも、その先生が見ていたから。先生の前でこぼすなんてことをしたら怒られる、そう考えると、緊張やパニックが混じってしまつて、誤つて鍋をこぼしてしまったのである。

先生は以前のように僕を怒ると、「あなたは他の人よりもできないのだから、このゴミをゴミ捨て場に捨ててきなさい」と言い、ゴミ袋を手渡された。ミートソースを拭いた紙が詰まった袋だ。さつき話したように、僕は恐怖を感じるとパニックになる。ゴミ捨て場に向かうも場所がわからなくなり、そのへんに捨てた。「はやく教室に帰ろう」そう思い、後ろを振り返ると、

先生が立っていた。後をつけていたのだ。「そんなに簡単なこともできないなんて」そう言う先生は、近くにいた年上の小学校4年くらいいの3人に声をかけた。

「あなたたち、コイツのことを笑ってあげなさい。」と。最初は戸惑った3人であったが、僕のことを笑ってきた。

思い出すのが本当に辛い。でも、ここに僕の「大人への認識」を根付かせた原因が全部詰まっている。

大人は信用できない。自信と大人への信用を失った僕は、よりイジメにあった。

ここまで話したことを振り返ってみると、どん底みたいだよ。でも、今は楽しく暮らしているよ。

うほうほ。

周りに多くの友達や知人に囲まれて楽しく暮らしているよ。自信もついた。僕が「半歩先」に進めたのは、大人との出会いじゃなくて、同世代との出会いがきっかけなんだ。10代後半の出会いと、20代前半の出会い。

続きの話は改めてしたいのだけど、今日は最後にこれだけ言わせて欲しい。これから先、僕が子供を持つて、その子供が一回でもイジメを受けたのであれば、まずはじめてきた子供の親に報告する。近所付き合ひなんてどーでもいいから。もし先生がイジメをしてきたのなら、その事実を学校につきつける。改善しなかったら、第三者機関なり

法に頼る。自分の仕事は絶対に休む。親同士の繋がりも、仕事も、マジでどうでもいいから。

大人は頼りにならないかもしれない。でも、もしあなたが、僕が子供の頃と同じような環境にいるのであれば、少なくとも僕は、

絶対に助けたいってそう思っているよ。

コミック

本欄の置まぐすり 4

しろくまカフェ 「コミック」 作者:ヒガアロハ

カフェを営むしろくまと、常連客のパンダさんや動物たちのほのぼのギャグ漫画。どこまで一もマイペースなパンダさん。得意なことは寝ながら笹を食べること。自分の気持ちに正直で、ほんとにマイペース。毎日だらだら。そんなパンダさんに癒されながら、そういう生活もありだなと思えるゆるゆる漫画。

だれにだって、得意不得意があってさ、できないことはすんごい努力しなきゃできないし、いまできることを精一杯やればいいのかな〜って、

ごろごろしながらぼんやり考えた。あと、アニメもあるのでそっちもいい。

もし、いじめにあったら

もし、いじめにあったら、どうしたらいいだろう、
あるいは、

自分以外のいじめを知ってしまったらどうしたらいい
だろう。

一つの方法としては、学校の先生や家族に相談する
のがいいと思う。

でも、いじめはいつも、子ども同士で起こるとは限
らない、ボヘミアンドックのように、先生が発端になる
ことだってある。家族からされれば、それは虐待と言
えるかもしれない。

そうしたら、他に話せる人がいればいいのだけれど、
チャイルドラインや電話相談や児童相談所に電話や
メールするのもありだと思う。

同じ学校の中では言いづらいかもしれないけど、
とにかく信頼できる誰かに話すこと。
僕らでもいい。

ナガノ近辺の電話相談窓口

長野県は、実は子どもたちへの電話相談の窓口は
長野県の事業で行っていて結構窓口も多い。

★チャイルドライン

18歳までの電話相談窓口です、何かアドバイス
や助言をすることはないよ、あなたの気持ちを、話
を聞いてくれます。もやもやした気持ちを抱えてい
るなら、話すだけ話してみるとずいぶん楽になるよ
Tel 0120-99-7777

★子ども支援センター

いじめや、体罰の悩みのほか、保護者が抱える子
育ての悩みに幅広く対応してくれる相談窓口です
Tel 0800-800-8035

★いのちのでんわ

子どもに限らず、悩んだり、孤独や不安になっ
たり心が疲れて自分を見失っている人に、電話を通じ
て共に考え感じ援助することを目的とする
ボランティア運動です。
Tel 026-223-4343

本棚の置きぐすり 5

コミック

よつばと 作者:あずまきよひこ

だいぶ有名になってるまんが。たぶん5歳くらいの女の子、よつばちゃんの夏休みから始まる何気ない
日常を描いた、コミック。

ほのぼのするんだよ、でも彼女は毎日を一生懸命楽しく生きてる。

なんか、そうゆうの忘れてたな〜って、思い返すと自分がこれくらいの頃って毎日世界と戦ってたな〜って、
細かい一言ひとことに関心してしまう。うん、明日はこれくらい毎日新鮮に世界を見ていきたい!

「ことばさがし」

さらみ

僕には生まれつきの難病があつて、病院に長く入院したり、家で体を休めたりして、長い間学校に行けなかった。そんなとき僕は「ことばさがし」をしていた。「ことばさがし」とは自分が作ったことば。わからないことを調べたり、関連付けたりすることでテンションがあがるというインドア中のインドアな活動。「ことばさがし」は「ことば」それ自体を追うやり方と、新しいことばを知るとの2種類がある。

「ことば」それ自体を追う方法には類語辞典を使う。類語辞典とはその名の通り、似た意味の言葉をいろいろな言い回しで書かれた大きな辞典。当時スマートフォンはなく、パソコンをはじめとするネット情報も限られていたから、広辞苑ぐらいの厚さの類語辞典を買ってもらつて、ひたすら眺めていた。例えば「曲がる」ということば。曲がり方によつて言い回しが違つてくる。あと、擬音によつても伝わり方は変わってくる。「しんなり」「ぐにゃん」「へによん」「ぐにゃ」。道を案内するときの一部地域で使われる。

キュツと曲がる。動いている様子が入ると「うねうね」「くねくね」。熟語になると「湾曲」「屈曲」「捻じ曲がる」「ひん曲がる」「カーブする」とか。違いについても考えた。「性格が曲がっている」と「道が曲がっている」の違いはなんだろうとか、「折れ曲がる」とも言うけど、

「折れたら曲がるにはならないなあ……」とか。調べれば調べるほど、

その「ことば」に熱中していった。

もうひとつは「新しいことばを知る」こと。いわゆる雑学。多くの時間を病院という特殊な環境下で過ごしたこともあつて、普通に学校へ通っているだけではまず得られない知識を当たり前のようについていた。自分の命や生活に直結することだから、ということもあるけれど、「よくそんなの知ってるね!」といわれるのが嬉しかったというのもある。例えば、点滴の管(ちなみにルートという)をとるときに使う注射針には太さ、用途によつていくつもの種類がある。太さはゲージという規格であらわされ、数字が低ければ低いほど太くなる。点滴には濃度の濃淡や内容、多くの量を短時間で落としたりゆっくり落としたり、と用途によつて様々な種類や方法がある。太い注射針でルートを確保すると、そこからはある程度濃かったり、速度が早かったりしても血管を痛めにくい。

本棚の置きかた 6

コミック

「世界の終りに柴犬と」 作者:石原 雄

私は、どうせ家にいるのであれば、アレルギーでもなければペットを飼うことをおすすめするよ。ヒトでなく、言葉もなく、寄り添うことをだけをしてくれる。家族でも友達でもなく、ただ居てくれる。そんな存在がそばにいてくれたら、心を許せるそんな存在と一緒にだったらずいぶん心が救われる。

えっと、荒廃した地球を柴犬と放浪する女の子の話です。

柴犬かわいいですね~もふもふですよ~もふもふ~

血管を痛めると、点滴が入っているとところが赤くなったり腫れ上がったりにして、痛くなってしまふ。ちなみに、輸血の際は太い注射針を使う。一方細い針は内容が薄い(水分など)を入れたり、インフルエンザの予防接種などに向いている。こう見ると太い針の方がいいじゃんと思うかもしれないけれど、刺すときの痛みが、ね、違うんだ。太い針、痛いんだ。普通に日常生活をしていて、注射針の太さについて考えることはまじないと思うけれど、自分の身に降りかかることだから、当時は看護師さんに聞くなどして、「生きていく上では全く役に立たない知識」||トリビアをひたすら増やしていった。そのおかげかどうかはわからないけど、知識を問う

テレビのクイズ問題は割と得意になった。

僕の「ことばさがし」の元は父にある。僕の知りたがりに対し、

「自分で調べろ」と一貫していた父は僕に辞書を始め多くの本を買ってくれた。自分で調べて学ぶことの大切さを教えたかったのか、ただ単に面倒くさかっただけなのかはわからないけれども、当時も今も感謝している。

「ことばさがし」で得たスキルは、社会人となった今でも、プライベートも仕事でも役に立っている。「これどういう意味だろう?」「このことばの使い方あ

ているのかな?」「他にどんな使い方や言い回しがあるのだろうか?」今はインターネットですぐに調べられます。ただ、インターネットの情報は虚偽もあるため、本や辞書、新聞などから探していくことも方法の一つだと思う(本や新聞が必ずしも本当のことを言っているとも限らないけれど...)。

もし「ことばさがし」に興味を持ってくれたら、さしあたり、この時期だったら「元号」「天皇」「雨」「アジサイ」「五月病」あたりだろうか。そこから関連付けて、自分のなかのことばを、一つ一つつくりあげていくと面白いかもしれない。

さらみ

東信地区でうごめく変な人。生まれてからの小腸の病気で、

短腸症候群という個性をゲット。入院、院内学級いじめ、命の危機など多数経験。

「普通ってなんぞや?」の答えを求め

イベント企画中。中学の時数学22点だったのに、何故か今お金に係わる仕事をしている。

次回予告と編集後記ッ〇〇〇

次回の「hanpo」はだいたい夏の終り頃発行予定。ふわっとした決め方だけど、編集部が暑いと思ったらまだ、夏です!!次のテーマは「ふつうとか当たり前って何よ?」の予定です、たのしみに!?待っていてくださいね。

ところで、これを始めてしまったのだけどどうだろうか、

実は、これを書き始めたのは、20代だったのに、書きあがったら30代になっていたんだよ、「あれれ~」って、なる。なんだろうな~、10代の頃も、20代の頃も、30代になっちゃっても、考えること何も変わらないんだよね。ヤベーやつかも...

まあ、そんな感じでこれからも末永くよろしく願いいたします。

しおあじ

ぼくらのいきばし♪

ここだけ横書きの、異色コーナー♪ナガノに住まう経験者たちのひといきつける居場所を紹介するコーナー、今回は長野市善光寺あたりでちょっと変わった、「対話」の場を作っている「おどりば」の紹介です。



おどりば
ODORI-BA

はじめまして、『おどりば』です。ご挨拶を兼ねて自己紹介をするところですが、これが難しい。暫定的ではありますが、僕たちは『おどりば』の形容として、自分自身と向き合う仮想共同空間、と言っています。

はて、意味がわかりませんね。今回は説明だけでこのページが終わりそうです。

「人生は階段のようにひと続きである」。きっとお偉い誰かが後世に残しているような名言です。誰が言っているかは知りません。ただ、まあ、日々の積み重ねのなかで生きている僕らの人生を形容するにいい例えのひとつではないでしょうか。

でも、段差だけが延々と続いているわけではなくて、途中には必ず“踊り場”があります。思うように進めなくなったとき。次のステップへの準備をしているとき。

RPGのセーブポイントのように、ひと息ついたり、持ち物を整理するような瞬間が必ず訪れます。

階段を登っている過程と決定的に異なるのは“視点”。駆け上がっているときは手を伸ばす先にある目標が対象物になるけど、踊り場は自分自身と向き合うことが、心の奥底の自分から要求されます。

皮肉かな、踊り場はその名前に反してひとり孤独な空間です。しかしながらこの孤独は自分と対話するためにも必要だと思っていて、ただ一方でこれが過ぎると心は悪いほうに行ってしまう。残念だけど、耐えられなくなって飛び降りてしまう人もいます。すっごく繊細な環境だからこそ、この場所でもう過ごせるかが大切なのでしょう。

ここで必要になるのは、自分自身を映してくれる鏡じゃないかなあと考えていて、

その鏡になりうるのが、同じく踊り場にいる 誰か だと思います。

自分自身との対話の時期。孤独で繊細な環境を、

ゆるやかにつないでいきたい。自分と向き合おうとする人たちが、

誰かを肯定しながら、自分を深めていくような場をつくりたい。

そんな願いを込めて、『おどりば』という仮想空間をつくりました。

主な活動としては、月に1回開催している『おどりばのいどばた』。

この企画、ざっくりと言えば、問いを中心に置いた雑談です。

毎回異なるテーマを設定して、集まった人たちと一緒に考える場。

日々の疑問、恋愛、働き方、死、お金…。おばけやヒーローをお題にしたことも。

登壇者が一段上に立って参加者に向けて話す一方向的なイベントではなくて、僕らもあくまで参加者として。

同じ目線の高さで、それぞれの言葉を尊重しながら輪を囲むことを大切にしてきました。



これに加えて今年からスタートしたのが、『おどりば』で過ごす人たちが想いを綴った日記を掲載するホームページの運営です。

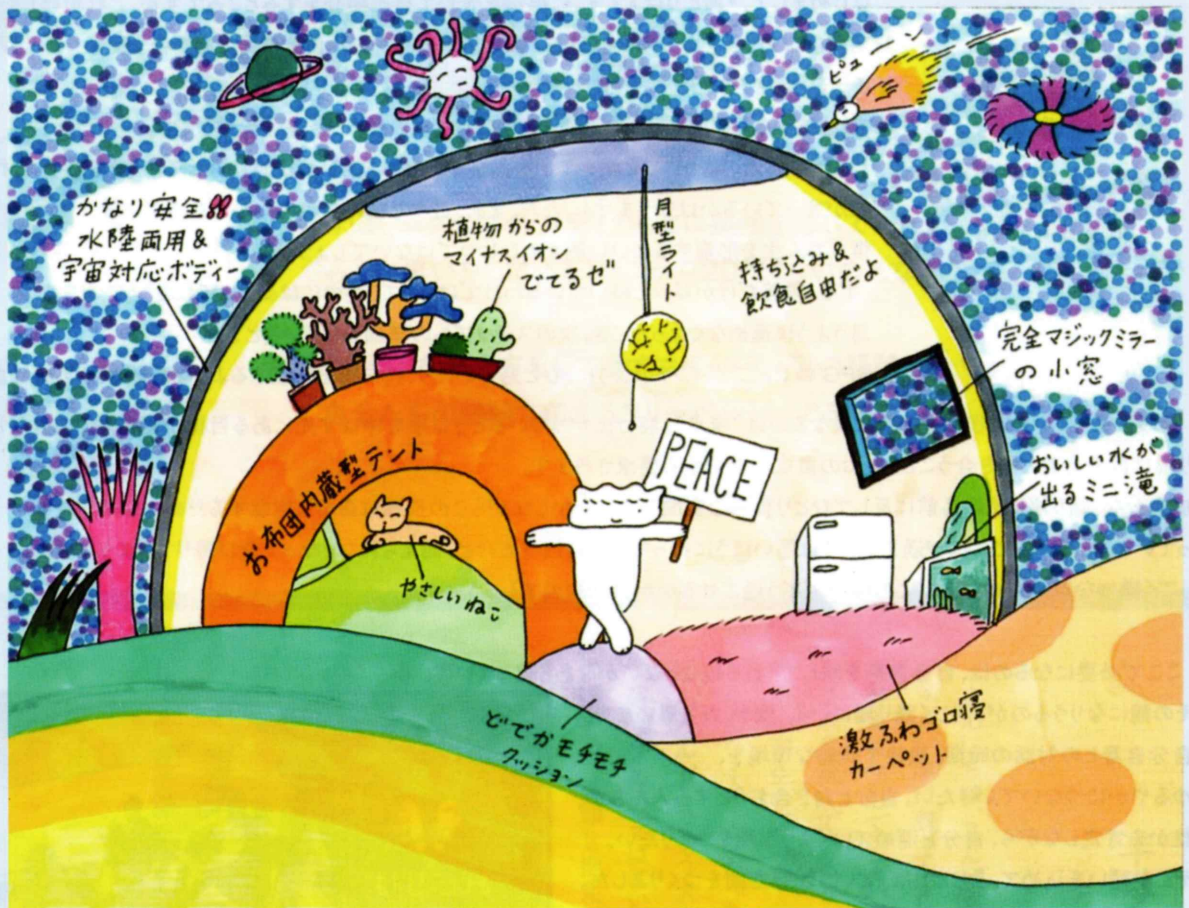
今後はもっと多くの人に関わってもらいながら、みんなで言葉を交わしていきたいなと思っています。『おどりば』という空間に共感してくれる方々それぞれの“踊り場”をつないで、その中心にこのページがあってほしい。それぞれの、自分自身に向けた

メッセージを、他の誰かも自分に重ねたりしながら、一緒に次の段差に足をかけていけるような。近すぎず、遠すぎず。

でもあたたかい空間にしていきたいです。…とまあ、こんな感じで、伝わったでしょうか。

もしこれを読んで、『おどりば』に興味を持ってくれる人がいてくれたら嬉しいです。気になった方がいたら、

ぜひこちらも見てくださいね。



「hanpo」のその他の情報や記事の続き、詳しいイベント情報は
⇒のQRコードの先

「hanpo」note版に記載されています。挿絵イラストとか記事
を書いてくれる方を募集中興味のある方は連絡ください。

また、ご意見ご感想もおまちしています。



—ご寄付のお願い—

これからもより多く、半歩先の声を届けるために寄付をお願いします。

<寄付振込先> ゆうちょ銀行 <振込先口座名> hanpo ハンポ
<店名> 059店 <当座> <口座記号番号> 00510-5-0053632

-お問い合わせ連絡先-

hanpo 編集部 ⇒⇒⇒ Email hanpoedit@gmail.com